令和８年度から、
妊娠28週～36週の妊婦の方を対象に

RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンの定期接種を実施します。

RSウイルス感染症は乳幼児が感染すると重症化することがあります

RSウイルスは小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、２歳までにほぼ全ての乳幼児がRSウイルスに少なくとも１度は感染するとされています。
感染すると、発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、初めて感染した乳幼児の約７割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約３割では咳が悪化し、重症化することがあります。
2010年代には、年間12万人～18万人の２歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、３万人～５万人が入院を要したとされています。

定期接種の対象

接種時点で、**妊娠28週０日 から 36週６日 までの妊婦の方**
過去の妊娠時にRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を
接種したことのある方も対象になります。

定期接種を受ける方法と費用

定期接種はお住まいの（住民票のある）市町村で実施されます。
接種できる場所や費用について、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。また、里帰り出産によりお住まいの市町村外での接種を希望する場合についても、お住まいの市町村にお問い合わせください。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

使用するワクチン(母子免疫ワクチン)について

母子免疫ワクチン(ファイザー社の組換えRSウイルスワクチン:アブリスボ®)を使用します。このワクチンは、妊婦の方に接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。

接種スケジュール	妊娠28週０日から36週６日までの間に1回接種

ワクチンの効果

	有効性(※1)	
	日齢０日～90日	日齢０日～180日
RSウイルス感染症による医療受診を必要とした下気道感染症(※2)の予防	６割程度の予防効果	５割程度の予防効果
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※3)の予防	８割程度の予防効果	７割程度の予防効果

※1 妊娠24週～36週の妊婦を対象としています。
※2 肺炎、気管支炎等の感染症
※3 医療機関への受診を要する気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸、SpO2 93%未満、高流量鼻カニュラまたは人工呼吸器の装着、4 時間を超えるICU への収容または無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

ワクチンの安全性

ワクチンの接種後に副反応がみられることがあります。
主な副反応には、接種部位の症状(疼痛、腫脹、紅斑)、頭痛、筋肉痛があります。
ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧症候群の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したというものもありますが、解釈に注意が必要であるとされています。
接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

●他のワクチンとの同時接種について

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

予防接種後に健康被害が生じた場合は、救済制度があります

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。
接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。制度の利用を申し込むときは、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。

RSウイルスワクチンについて
詳しく知りたい方はこちら

厚生労働省ホームページ
厚労省 RSウイルス 母子免疫ワクチン

2026年 4月